

令和4年度 江戸川区立本一色小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	○考える子 ○やさしい子 ○たくましい子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	どの子も笑顔で登校し、満ち足りた気持ちで家路につく学び舎
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>○友だちの話を最後まで聞く児童が増えた。他者意識の姿勢が見られるようになった。 ○授業で考える場面を工夫することにより、思考力・表現力を伸ばした児童が増えた。 <課題>○自分の考えを適切な言葉で話したり、相手の話を丁寧に聞いたりする姿勢をさらに身につけさせること。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策	
					取組	成果	成果と課題	評価		コメント
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・一人一台端末を活用した個別最適な学びの実現 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	○放課後補習教室の実施 ○一人一台端末を活用した授業改善 ○担任による放課後補習の実施	○全国学力・学習状況調査で都の正答率を上回る。	A	A	国語、理科で都の正答率を大きく上回った。算数は、1ポイント下回った。教科の学習を楽しくできたの肯定的自己評価は概ね85%になった。今後も楽しく学習できるように努めたい。	A	楽しくできたという肯定的自己評価が85%の達成は素晴らしいと思う。ICTを活用した授業改善など創意工夫してもらっていると感じている。	生活習慣を含めた学力向上への取組み
	体力の向上	・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実 ・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	○運動タイム年間を通して実施 ○体育の授業の改善	○体力合計点で昨年を上回る。	A	B	体力合計点は、低学年で昨年度をやや下回った学年が多かった。高学年は、昨年度を上回った。児童にめあてをもたせ週1回運動タイムに取組み、楽しく体を動かすことができた。継続して取り組んでいく。	A	昨年度より運動する機会は増えた。	体力向上のための自己のめあてを意識した運動実践の充実
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実 (読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等) ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	○各学級が週1回以上、図書室を利用 ○調べ学習に学期に1回は活用 ○図書館を使った調べる学習コンクールに向けての取組み	○本をたくさん読んだの肯定的自己評価85%	A	A	本をたくさん読んだの肯定的自己評価は85%を超えた。図書館を使った調べる学習コンクールへの応募率は60%であった。	A	読書の習慣化はなかなか難しいが、図書館の整備や図書ボランティアの活用を行い、工夫を凝らした取り組みを続けてほしい。	図書を使った調べる学習の充実
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	○外国語担当を中心とした外国語研修の実施	○年2回の研修を実施。	B	B	ALTと協力して授業を行っているが、さらに担任の授業力向上が必要。	B	学校の授業に外国語専門の先生がいるといいと思う。	校内研修の充実
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	○特支研修会年3回の実施 ○校内支援委員会の充実 ○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の研究 ○個別支援計画・個別指導計画の作成	○hyperQ-U満足度群出現率の増加	A	B	特支研修会等の充実により、支援の必要な児童について全体で共通理解ができている。引き続き、児童のよさや頑張りを認める授業や指導を行う。都立鹿本学園とのDVD交換の交流を行った。来年度は、対面での交流を実施したい。	A	特別に配慮した指導や副籍交流など今後も続けてほしい。交流会も対面で実施できるとよい。	特別支援研修会の充実 都立鹿本学園と対面での交流会を実施
	子供たちの健全育成	・子供たちの健全育成に向けた取組 ・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チャイルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	○ふれあい月間の取組み強化 ○生活指導全体会を年3回・生活指導夕会の毎週実施	○hyperQ-U満足度の要支援出現率の減少。 ○不登校・いじめ認知件数の減少。	A	B	児童の様子を担当だけでなく、SC、介助員等多くの目で見守るようにし、気になることは生活指導夕会で共有し、指導に活かした。	A	多くの目で児童を見守ることで、情報共有と指導体制ができていく。	多くの職員での見守りの継続と、情報共有を指導に活かす。迅速な対応を行う。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	○授業観察を含めた年3回の学校評議員会の充実	○学校評議員会アンケートの回収率の増加。	A	A	学校関係者評価を指導方法の工夫改善に生かした。	A	今後も見守りを続けていきたい。学校公開で児童の様子を知ることができて良かった。	学校評議員会との連携の強化
	教員研修の充実	・ICT支援員による構内研修の実施によるICTを活用した教員の授業力の向上	○電子教科書、タブレットを常時使用	○東京ベーシックドリル、算数の診断テストの正答率70%。	A	B	日々の授業にICTを十分に活用することができている。	B	ICT活用の効率的学習を更に進めてほしい。	ICTを使った授業実践の充実
	思考力・表現力を伸ばす授業の推進	主体的、対話的で深い学びを目指す授業の充実	○研究授業年6回実施 ○OJTの授業研修月1回以上実施	○思考力・表現力A評価50%	B	B	研究授業は年に6回実施した。	B	時間的に厳しい中、充分に取り組みれていたと思う。	来年度の研究に向け、成果と課題をまとめる。
特色ある教育の展開	GIGAスクール構想の端末を利用した授業の充実	・授業での積極的な活用	○ラインズ支援員と協力した、ICTを積極的な活用	○タブレット端末の仕様についてのルールをしっかりと指導し、学習ツールとして活用する。	A	A	ICT支援のラインズと連携してタブレット端末を活用した授業に取り組んでいる。	B	タブレットルールを徹底してほしい。	タブレットルールやSNSルールの指導の徹底と指導方法の工夫
	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	○1ヶ月の残業時間45時間以内。	○1ヶ月の残業時間45時間以上の割合の減少。	A	B	残業45時間以内を呼び掛けている。20パーセント減を目指す。	B	タブレット等新しいものがいろいろと導入され多忙で苦労されていると思う。	残業時間の削減と仕事の効率化
	人権意識の向上	異学年交流による思いやりの心の醸成	○あすなる班活動の実施	○いじめアンケート、問題行動調査の結果改善を目指す。	A	A	あすなる班は、活動方法を工夫しながら取り組んでいる。	A	制約が多い中だが、歴史のあるあすなる班活動は充実していると思う。体験を重視した活動を続けてほしい。	あすなる活動を中心とする活動の継続
	校内研究の充実	国語科における授業力の向上	○教員全員での授業研究	○国語科が好きという児童の増加。	A	A	各学年とも「主体的・対話的で深い学び」を目指し、工夫した授業を展開している。	A	取組みやすい教材で進めるのは「主体的・対話的で深い学び」に大切なことだと思う。	地域・保護者に研究のことをさらに周知
小中連携教育の推進	「小中連携プログラム」及び「各教育等の連携教育プログラム」による充実	○「小中連携プログラム」の見直し	○教員の交流会実施	A	B	中学校へ向け望ましい進学にするため、交流会の実施計画をたてている。	B	コロナ禍で小中連携しての取組みは大変だと思う。	小中連携プログラムの確実な実践	